

美味しいお米にありがとう

新潟県新潟市立鳥屋野中学校

三年 西村 美空

新潟のお米はホンマにうまいんやび！

これは、私が小さい頃から大阪出身の父がよ

く言っていた言葉だ。その時、小さかった私

はあまり気にとめずに、何気なくご飯を食べ

ていた。

私は新潟で生まれ、父の仕事の関係で、長

野、東京に八年間住んでいた。そして中一で

母と二人で再び新潟に戻ってきた。父は東京

に残って、母と二人でドキドキの新生活をス

タートにした。転校は何回もして、慣れ

はいたけれど、それでも毎日緊張の連続でハ

トハトな毎日だった。そんな私を、母は家

温かいご飯を作ってくれてくれた。

「なに？このお米！すごい美味しい！びく

母と二人で興奮しながらお米の美味しさ

顔になつた。甘さがぎゅっしりつま

気のあるお米に感動した。疲れをい

も一気に吹き飛んだ。こんなに衝撃を受けた
 お米は初めてだった。毎日美味しいご飯に元
 氣をもらい続けた。
 母は、長野や東京にいた頃も新潟県産コシ
 ヒカリを買ったと言った。私は疑問に思
 った。なんで新潟で食べるとお米はこんなに
 美味しいんだろ。と。
 そんな中、学校の行事で田植えがあった。
 学校田に行くまで、友達とワクワクしながら
 話をしていた。初めての本格的な田植えだ。
 たのび、どんな風にお米を植えるのか楽し
 だ。私たちが植える順番のとき、裸足で
 田んぼに入るとは思わなくて驚いた。腰を屈
 めながら植えるのは大変だった。農家の方
 々の大変さも感じられた。全ての稲を皆で植
 え終わる時は達成感があり、すごく楽しか
 った。ふと周りを見ると、大きくて澄みき
 た広い空があり、きれいな空気、みんなの笑顔
 があつた。私にとってもこの景色は一生忘れ
 らないものだ。感じ、この風景が美味し
 いお

中三の初夏の頃、父が新潟に転勤になり、
 家族三人でまた生活できるとなりました。三
 人で食卓を囲み、
 お父さんが言ったことによく分かったよ。
 新潟のお米は最高だね。
 フニマヤろ。
 と話しながらご飯を口いっぱい頬張った。
 皆でご飯を食われ幸せだとばかり思った。
 八年振りに新潟に戻り、お米の美味しさを
 実感し、新潟はとて豊かだと素晴らしい所だ
 と再発見できた。そして新潟のことがさらに
 好きになつた。きれいな景色、美味しいうど
 育ちた新潟のお米はとて貴重な宝物だと思
 う。これから私の故郷新潟を大切に思いな
 がら、お米に感謝しながら日々を過ごしてい
 きたいと思つてゐる。